

「自ら進んで運動に取り組む、 健やかな心と体を持つ児童の育成」

秩父市立高篠小学校

1 研究の目的

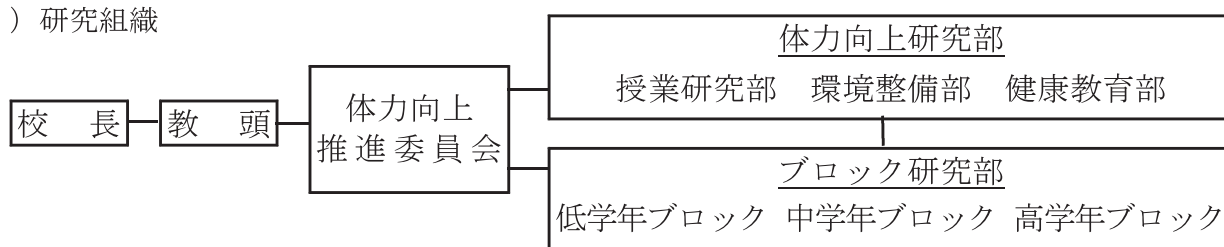
本校は平成25年度、26年度の2年間、埼玉県教育委員会から体力課題解決研究指定校として委嘱を受けた。校内研修は体力向上を中心とした取組を行っている。

本校児童の運動面での実態を見ると、平成25年5月の新体力テストでは、総合評価A+Bの割合が46.4%であったが、11月の2回目の新体力テストにおいては、総合評価A+Bの割合が77.4%と向上した。しかし、「立ち幅跳び」と「握力」に関しては、県平均を下回る学年があり、「跳躍力」と「握力」が本校のここ数年の課題である。また、健康教育の面においては生活習慣のさらなる改善が課題である。意識調査の結果からは、運動をすることが好きな児童の割合が94.5%（「好き」、「やや好き」を合計した割合）であった。

そこで、本校の研究主題を「自ら進んで運動に取り組む、健やかな心と体を持つ児童の育成」と設定した。また、目指す児童像を「元気いっぱい 運動大好き しのめっ子」とし、体力の向上と運動好きな児童の増加を目指した取組を実践していきたい。

2 研究の実践内容

(1) 研究組織



(2) 各体力向上研究部の仮説

ア 授業研究部仮説

体育科の授業において、子どもが「できる」「のびる」体験を積み重ね、運動の楽しさを味わわせる授業を展開すれば学習意欲が高まり、自ら進んで運動に取り組む子どもが育つであろう。

イ 環境整備部仮説

児童の実態を把握し、子どもたちが意欲的に取り組むことのできる体育環境を整備すれば、自ら進んで運動に取り組む子どもが育つであろう。

ウ 健康教育部仮説

身近な健康に関する実践を通し、子どもたちの理解が深まる指導法を工夫したり、健康な生活をめざす生活習慣の改善や家庭との連携を図ったりすれば、健やかな心と体を持つ子どもが育つであろう。

(3) 各体力向上研究部の取組

ア 授業研究部

- (ア) 発達段階に応じた指導法の工夫・改善や年間指導計画の見直し
- (イ) 高篠小「体育授業の基本」を作成することによる学習規律の確立
- (ウ) 自校体操による学校統一の準備運動・補助運動の実施
- (エ) 発達段階に応じた思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実

イ 環境整備部

- (ア) 児童の運動に係る実態調査の実施とその分析
- (イ) 生活体育の環境整備「しのめチャレンジの実施」（しのめクロスカントリー、校庭100周、縦割り班遊び等）
- (ウ) 業前運動の工夫改善（朝遊び補助員を活用した外遊びの奨励）
- (エ) 業間運動の工夫改善（毎週金曜日わくわくタイム実施：短なわとび、長なわとび、マ

ラソン)

(オ) 各種運動の掲示

(カ) 委員会児童による鉄棒教室

ウ 健康教育部

(ア) 児童の生活実態調査とその分析（早寝、早起き、朝ごはん、朝うんち調べ）

(イ) 食育の積極的な推進

(4) 各ブロックの研究授業における取組

ア 低学年ブロック

1年生：ボールなげゲーム（ゲーム）

ボール投げの基本技能を身に付けさせ、ボールを段ボールに当てると動くというゲームの楽しさを味わわせると共に、ボール運動に対する興味・関心を高めさせた。

イ 中学年ブロック

4年生：小型ハードル走（走・跳の運動）

小型ハードルを一定のリズムで走り越し、動きが途切れずに連続して走り続けることと、友だちとの教え合いを大切にすることを学習の中心として進めた。

ウ 高学年ブロック

6年生：バスケットボール（ゴール型）

バスケットボールでは、基本技能を身に付けさせながらそれを活用し、仲間との関わり合いの中で運動の楽しさや喜びを児童に共有させる授業を展開した。

(5) しののめ台の整備と活用

本校の校庭東側にある高台（しののめ台）を活用した体力向上の取組を行っている。体育授業にしののめ台の登り下りを取り入れたり、「しののめクロスントリーカード」の活用により、休み時間にも子どもたちはしののめ台に登って遊ぶことが多くなった。

しののめ台の整備は、夏休みのPTA奉仕作業と地域の方々に参加をいただいている「しののめ台倶楽部」の作業で、子どもたちが安全に活動できるようにしている。



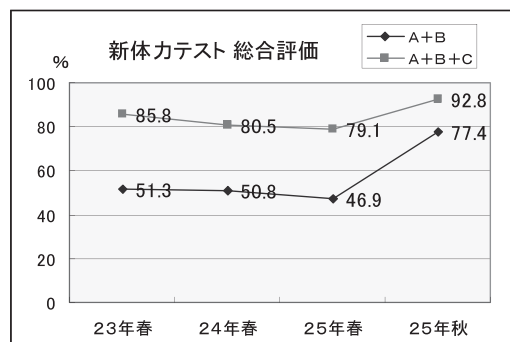
3 研究の成果

(1) 体育に関する意識調査を行うことにより、児童の実態をとらえた授業展開が行えるようになってきた。指導案の中で研究テーマや目指す児童像をおさえることにより、指導の焦点化が図れるようになった。

(2) 教具や環境面を充実したことにより、運動の生活化が図られ、子どもたちが意欲的に運動に取り組むようになった。

(3) 「早寝、早起き、朝ごはん、朝うんち調べ」を継続的に取り組むことにより、家庭と協力しながら、生活習慣の改善が図られるようになってきた。

(4) 新体力テストの総合評価において、平成25年春までは、年々下降気味であったが、平成25年秋は伸びが見られた。



4 今後の課題

(1) 「元気いっぱい 運動大好き しののめっ子」の育成を目指し、今後も体育授業の工夫改善に取り組んでいく。

(2) 児童自らが、運動や遊び方工夫して、楽しみながら積極的に体力づくりができるよう、運動の生活化を図っていく。

(3) 心と体の健康づくりにおいて、意識は高まってきたが、まだ望ましい態度や習慣が身に付いていない面もあるので、今後も家庭と連携して取り組んでいく。

(担当 教諭 宮原宏成)

学力向上を目指した学習指導の工夫

ー 表現力（発表力）の育成を通して ー

秩父市立大田小学校

1 はじめに

本校の児童は、全体的に意欲的で、与えられたことや、指示されたことに対しては真面目に取り組む姿が見られる。しかし、自ら進んで学習したり、活動したりする態度は十分とは言えない。また、自分の思いや考えを話したり発表したりすることが苦手な児童が多く、国語科では「読み取る力」「自分の考えや思いを書く力」算数科では「考えを説明する力」が不足している。さらに、全国学力・学習状況調査の結果からも基礎的・基本的な知識・技能は概ね身につけているが、思考力・判断力・表現力の力が弱いことが明らかとなっている。特に、考えの根拠や筋道を明らかにして表現すること、物事を多用な観点から考察する力や複数の情報をリンクさせて考察する力に課題がある。これらのことから、学習課題に対して自分の考えをもち、それを根拠や筋道を明確に表現することで、相手にわかりやすく伝えることができ、主体的に課題を解決する児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

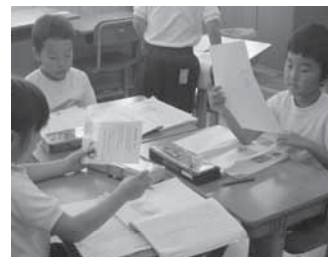
2 研究の概要

(1) 研究主題

学力向上を目指した学習指導の工夫～表現力（発表力）の育成を通して～

(2) 研究の基本方針

- ① 少人数加配による TT 指導、少人数指導の工夫・改善を図る。
 - ・個に応じたきめ細かい指導の充実
- ② 児童が学習に意欲的に取り組み、分かる楽しい授業を実践する。
 - ・児童が活躍でき、「できた」という喜びの味わえる授業の推進
 - ・学習カードの積極的活用
- ③ 繰り返し学習・家庭学習の充実により基礎学力の向上を図る。
 - ・復習プリントの計画的な実施（始業後 5 分間等）
 - ・「家庭学習・読書貯金」の活用
- ④ 言語活動の一層の充実に努める。
 - ・発表する機会の確保
 - ・国語・算数をはじめ各教科における発表ボードの利用
 - ・2 人組、グループでの話し合いと発表などの学習形態の工夫
 - ・「短い記憶から長い記憶へ」を合い言葉にして「繰り返しの発問」で授業にやり取りを生み出す学習活動の実施



(3) 手立て

低学年	<ul style="list-style-type: none">・分かる楽しい授業の工夫・児童が活躍でき、喜びを味わえる工夫・年間通しての読書量を増やすための取組
高学年	<ul style="list-style-type: none">・言語活動を取り入れた指導と評価の工夫・国語科だけでなく他の教科指導、学校行事や児童会活動等様々な教育活動の中で、言語活動を意識し、言葉を伝え合うことを積極的に取り入れていく。・年間通しての読書量を増やすための取組

3 具体的な取組

(1) 要請訪問での研究授業

第 1 学年国語科の実践 10 月 28 日（月）（加藤真紀子 教諭）

○单元名 ばめんのようすをおもいうかべてよむ「りすのわすれもの」

○本時の目標

「さんた」の様子や気持ちを想像し、話し合うことで、読み取りを深める。

○指導方法の工夫

- ・「学習すること」カードを使い、学習内容を確認させた。「わかったこと」カードを使い、本時でわかったことを確認させた。
- ・「発表名人・聞き方名人」を活用し、全員が自分の考えを発表するときや質問すると

きの手立てとした。

- ・全体で発表する前にペアになり、相談させたり、グループで発表させた。
- ・実際にさんの行動を動作化し、どんな様子かを考えさせた。

○指導・助言

- ・子どもたちの実態に合った指導が大切。
- ・ほめる種をまき、芽を出したり、努力している子を見つけてほめる。教師も高まる。
- ・全体会での研究協議がワークショップ形式でなされ、グループごとの内容が濃かった。明日から自分の授業に生かしたいことが言葉に出され、個々の力が高まる協議であった。

第6学年理科の実践 1月20日(月) (須永伸一 教諭)

○単元名 「電気とわたしたちの暮らし」

○本時の目標

コンデンサーに電気をためて、ためた電気を使えるかを調べることができる。

○指導方法の工夫

- ・ペア学習、グループ学習を取り入れ児童同士の意見交換をさせた。
- ・小黒板を使いまとめさせた。(まとめ方の指導)
- ・視覚にうったえる掲示物、絵の利用(板書の工夫)



○研究協議から

- ・準備もよく、考える時間が十分確保されていたので班ごとの話し合いが深まった。
- ・実験において全員が交代で操作活動をできるとよい。
- ・根拠を明確にして予想を立てたり、実験結果から考察して結論をまとめる活動を充実させたい。

(2) その他の主な取組

- ①「家庭学習・読書貯金」の活用・・・家庭での学習及び読書の時間を増やすため、毎日の時間を記録させ、それを貯金として累積することで意欲化を図っている。
- ②わかりやすい授業づくり・・・全学級・全教科で毎時ごとに「学習すること」「わかったこと」の黒板掲示用カードを使い、本時の学習課題やまとめを明らかにしてわかりやすい授業づくりに努めている。
- ③繰り返し学習の充実・・・5分間でできる程度の問題を用意し、計算や漢字の復習問題を授業に組み込んで実施している。
- ④小中が連携しての取組・・・中学校の定期テストに合わせて家庭学習集中取組期間を設定し、[学年×10分間]以上を目標にして家庭学習習慣の定着に向けて取り組ませている。
- ⑤毎週2回の朝学習の実施・・・毎週水曜日の業前10分間はワークシート等による文章を読んで内容をまとめる学習、毎週金曜日の業前10分間は漢字・計算ドリル学習を年間通して継続的に取り組んでいる。
- ⑥学力向上プロジェクトの実施・・・年度末の2週間4・5年生に各学年のまとめの補習を放課後実施している。
- ⑦夏休み算数教室の実施

4 おわりに

(1) 成果

- ペア学習、グループ学習、繰り返し学習により、児童の表現力、発表力が高まっている。
- 考える時間や発表の機会を確保することにより、児童ができたという喜びや満足感を味わえる授業が実施できている。

(2) 課題

- 文章題や図・グラフなどから問題の解決に必要な情報を読み取れないことが多いので、今後はさらに読書にも力を入れて読解力や活用力を高めていきたい。
- 取組により、成果をあげているので、実践を継続していきたい。

(担当 教諭 宮原 孝)

気づき、考え、伝える子の育成 — 算数的活動の充実をめざして —

秩父市立影森小学校

1 研究主題設定の理由

(1) 学校教育目標との関連

本校の学校教育目標は「つよい子」「あかるい子」「かしこい子」である。本校では、健やかな身体、豊かな心、確かな学力の育成に取り組んでいる。今年度研究主題を「気づき、考え、伝える子の育成」とし、算数的活動の充実をめざして研究に取り組んでいる。気づき、考え、伝える力をはぐくむには、授業の中で自分の思いや考えを相手に伝える場面を多く作る必要がある。算数的活動を通して、「気づき」をより具体的な「考え」として、表現させたい。そして、自分の気づきや発見に自信を持つことで、意欲的に友達との伝え合いにつなげていきたい。

(2) 児童の実態

算数の学習についての意識調査を行ったところ、算数を好きと答える児童の理由に「計算が得意」「わからないことがわかるようになったとき」「多様な考えに気づき、自力で解決できたとき」などに、喜びや楽しさを感じていることがあげられ、嫌いと答える理由には、「考え方がわからない」「やり方などの方法が理解できない」「計算でのつまずき」などが理由としてあげられている。このような児童に、基礎・基本の定着を図り、個に応じた支援を行い、学習意欲を高め、楽しく算数の学習に取り組めるようにしたいと考えた。

2 研究の概要

(1) 基礎・基本の確実な定着を図る工夫

- ア 少人数指導を積極的に取り入れ、個に応じたきめ細かな支援をする。
- イ 児童が考えの根拠を示しやすい教材・教具の工夫を行う。

(2) 児童の主体的な学習を推進する授業展開の工夫

- ア 児童が自分に合ったコースを選び、見通しを持って意欲的に学習する。
- イ 学習内容の系統性にそった指導過程の工夫をする。

(3) 個を生かす環境構成と評価の工夫

- ア 自己評価カードを活用し、自分自身の成果に気づいたり、課題を明確にしたりできるようにし、また補助簿を活用して、指導と評価の一体化を図る。
- イ 算数コーナーを設置し、授業内容の定着を図る。

3 各ブロックの研究

(1) 低学年ブロック

- ア 研究授業 2年生「形をしらべよう」 須永 美礼 教諭

(ア) ねらい

平面図形に親しみ、図形についての感覚を豊かにするとともに、三角形・四角形などの構成要素をとらえ、それらの意味や性質を理解する。

(イ) 算数的活動の充実

全体の前で自信をもって発表できるようにするために、ペア学習でかいた図形を確かめ合ったり、考えを言い合ったりする。

(ウ) 成果

ペア学習や全体で、発表する活動を多く入れることで、三角形・四角形の理解が深まり、定規を使って正確に作図ができるようになった。

(エ) 課題

限られた時間の中での、効果的な具体物を使った操作活動の取り入れ方を工夫していきたい。

イ ブロックの取組

(ア) 工夫したこと

- a 学習内容の系統性にそった指導過程の工夫
- b 生活に結びつけた題材設定と具体物の操作
- c 算数コーナーを設置

(イ) 成果

具体物を操作することにより、数の構成や図形の特徴をよく理解できた。
算数コーナーを設けたことにより、振り返りの学習ができた。

(ウ) 課題

個々の児童への理解に応じた課題の与え方や、自分の考えを筋道を立てて発表す



る力をつけさせる手立てを考えていきたい。

(2) 中学年ブロック

ア 研究授業 4年生「わり算のしかたを考えよう」
富山泰正 教諭 高野敬子 教諭 根岸忠 教諭 加藤静江 教諭

(ア) ねらい

ある数がもとにする大きさの何倍かを求めるには、わり算を用いることを理解する。

(イ) 算数的活動の充実

各コースに合わせて、実物大の絵、縮小した絵、テープ図や数直線を利用し、興味を持って児童が自ら問題解決ができるよう工夫した。

(ウ) 成果

実物大の絵を使うことで、比べらる量と比べる量が理解できた。また、それらを使って実際に比べたり、歩幅を利用して問題を解くことにより、実感を伴って学習に臨めた。縮小の絵から、テープ図に置き換えたり、数値化するなど段階的な指導ができた。

(エ) 課題

自分でメモリの等しい数直線が書けない。言語理解、文章の読解など国語力の充実が必要である。倍概念の中でもとにする量を1として見ることができない。

イ ブロックの取組

(ア) 工夫したこと

- a 問題文を意識化
- b 自分の考えを書くノート指導の継続化
- c 主体的に学習し、意欲を引き出すコース別学習

(イ) 成果

問題文の内容を「わかっていること」「求めること」に分けて読み取ることができるようになってきた。考えも言葉で表現できるようになってきた。

(ウ) 課題

新しい計算方法が入ってきた時に、計算ミスが目立ち、計算の習熟が不安定になる。少人数指導のコース分けは一考を要する。



(3) 高学年ブロック

ア 研究授業 5年生「図形の角を調べよう」 野澤 雅人 教諭

(ア) ねらい

三角形や四角形の内角の和について、図形の性質として見だし、それを用いて図形を調べたり、構成したりすることができるようになる。

(イ) 算数的活動の充実

四角形の内角の和について、三角形の内角の和が 180° であることを使って考えられるようワークシートを工夫した。そのワークシートを使って説明しあう活動を行った。

(ウ) 成果

三角形の内角の和が 180° であることを使って演繹的に説明することができた。説明することを苦手感じていた児童も説明することができた。

(エ) 課題

多様な考えを引き出すための指示の工夫を考えるとともに、検討の時間をいかに確保していくかが課題である。

イ ブロックの取組

(ア) 工夫したこと

- a 気づくための、既習事項の確認
- b 考えるための、算数的活動の工夫
- c 伝え合うための、場の工夫

(イ) 成果

既習事項を振り返ることで、多くの児童が考えを持てた。算数的活動と形態を工夫して、考えを深められた。

(ウ) 課題

教員間の連絡・連携を行える時間を確保し、進めていく必要がある。



(担当 教諭 設楽尚孝)

「学力」「規律」「体力」のバランスのとれた教育活動の推進 — 言語活動の充実を図り、 意欲的に国語科に取り組む児童の育成 — 秩父市立吉田小学校

1 はじめに

全国学力・学習状況調査等の結果から、「文章を読み取る力」の個人差が大きく、それが学力の差となっていることが明らかとなった。そこで、児童に身に付けさせたい力の第一を「文章を読み取る力」とし、「言語活動の充実を図り、意欲的に国語科に取り組む児童の育成」というテーマを設定し、児童の学力向上を目指して国語科を中心に研究に取り組むこととした。

2 研究の概要

(1) 学習指導の充実と改善

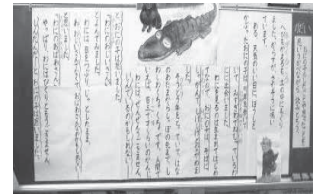
低学年ブロック・高学年ブロックで仮説と手立てを設定し、日々の授業実践を通して学習指導の充実と改善を図り、年2回の授業研究会で検証する。

ア 低学年ブロックの仮説と手立て（仮説3・4は略）

(ア) 仮説1と手立て

物語文では、登場人物の気持ちが分かる言葉に着目する学習を続けていけば、読解力・表現力を高め、意欲的に国語科に取り組む児童の育成が図れるであろう。

- 読み取りに関わる重要な部分にラインを引かせる。
- 教科書を拡大したり、挿絵等を提示したりする。
- 穴埋めや吹き出しを工夫したワークシートを活用する。
- 1時間の流れが分かるノートの書き方を工夫する。
- 役割読みや動作化などを取り入れる。



(イ) 仮説2と手立て

国語科の授業に言語活動を計画的に取り入れ、繰り返し指導すれば、表現力を高め、意欲的に国語科に取り組む児童の育成が図れるであろう。

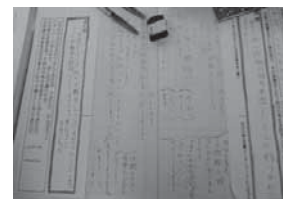
- 「話し合う」「紹介する」「感想を書く」「本を作る」「説明する」「演じる」「読み合う」等の言語活動を計画的に取り入れ、繰り返し指導する。

イ 高学年ブロックの仮説と手立て（仮説3は略）

(ア) 仮説1と手立て

読むことに関わる指導では、読み取りと音読の観点を明確に示して指導すれば、読み取りの手順が身に付き、課題を意識した文章の読み取りができるようになるであろう。

- 自分の考えのもとになる文章にサイドラインを引かせる。
- キーワードをもとに、自分の考えを書かせる。
- 友達と考えや意見を比べさせる（相談タイムの活用）。
- 読み取りの課題とまとめが明確になるノート指導をする。
- 音読のめあてを活用して、繰り返し指導する。



(イ) 仮説2と手立て

書くことに関わる言語活動を効果的に取り入れることで、書くことの意欲も高まり、課題にそった文章のまとめを書くことができるようになるであろう。

- キーワードから想像して心情を書かせる。
- 文の書き始めや文末を指示する。
- 心情の変化は、「初め・中・終わり」のように大きなまとまりで書かせる。

ウ 授業研究会

(ア) 第1回授業研究会(要請訪問 指導者 新井章弘指導主事)

○第5学年 生き方を見つめて読む「大造じいさんとがん」

○10月23日(水)実施 授業者 酒井純子 教諭



○研究協議から

- ・仮説に基づく手立てを効果的に取り入れている授業であった。
- ・ノートと一致する板書であり、1時間の流れがよく分かった。
- ・「自分の考えを書く→相談タイム→発表する」という流れがよい。
- ・書く量が多かったが、よく訓練されていた。

(イ) 第2回授業研究会(要請訪問 指導者 新井章弘指導主事)

○第2学年 場面の様子を思いうかべて読む

「わにのおじいさんのたからもの」

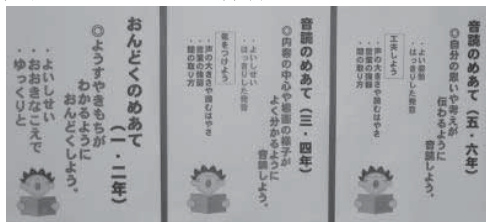
○11月21日(木)実施 授業者 岩城清美 教諭



○研究協議から

- ・学習規律が徹底しており、確かな学力を付ける授業であった。
- ・動作化を取り入れ、より想像を膨らませることができた。
- ・手書きの本文を掲示して指導していたので、たいへん見やすかった。
- ・想像したことをしっかりと書くことができていた。

(2) 音読のめあての作成



低学年・中学年・高学年の発達段階を踏まえ、「音読のめあて」を作成した。

教室に掲示し継続して授業で活用することにより、読み取る力を伸ばす手立てとして全学級で取り組んだ。

(3) 国語科に関するその他の全校の取組

- ア 業前に視写の時間や朝読書の時間を設定した。
- イ 毎学期全校漢字テストを実施した。
- ウ 年2回詩の暗唱に取り組んだ。
- エ 吉田小読書まつりを実施し、読書活動を充実させた。
- オ ボランティアによる読み聞かせや児童同士の読み聞かせ活動を実施した。



3 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- ア 仮説と手立てを設定し、日々の授業実践を通して授業改善を図ることができた。
- イ 課題解決につながる叙述に目を向けられる児童が増えてきた。
- ウ 「読むこと」について、目的意識をもって意欲的に取り組めるようになった。

(2) 課題

- ア 意見交換の質を高めるため、ペアやグループでの活動を工夫する必要がある。
- イ 読み取ったこと、自分の考えや意見等を伝える力を付けていきたい。

(担当 教諭 新井誠之)